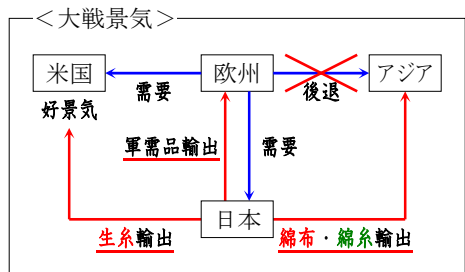


[A] 大戦景気の背景

1914 年に勃発した第一次世界大戦は、国境を接する西部戦線ではドイツ・フランス両軍が塹壕にこもって対峙するなど戦線が膠着し、さらには飛行機・戦車・毒ガス等の新兵器が出現し、海域ではドイツによる通商破壊作戦が盛んに行われるなど戦争は長期化した。最終的には、1917 年にアメリカが連合国側として参戦したことが決定打となり、国内で革命の起こったドイツ・オーストリアが 1918 年に降伏したことで、1918 年に第一次世界大戦は終了することになる。

ただ、第一次世界大戦が長期化したことで、日本は 1915～1918 年にかけて大戦景気と呼ばれる空前の好景気となった。大戦景気が起きた要因は論述問題でも出題されやすく、大きな要因が 3 つある。1 つ目は戦争当事国となったヨーロッパ諸国からアメリカや日本への軍需品の注文が殺到し、ヨーロッパ市場への軍需品の輸出が増加したこと。2 つ目は交戦中のヨーロッパ諸国がアジア市場から後退したことにより、中国をはじめとしたアジア市場への綿織物(綿布)・綿糸の輸出が増加したこと。さらに 3 つ目は、第一次世界大戦による需要で好景気のアメリカ市場への生糸の輸出が増加したことが挙げられる。



また、第一次世界大戦の勃発により欧州諸国が金本位制を停止したため(金輸出の禁止)、日本もアメリカと同時期の寺内正毅内閣時の 1917 年に金本位制を停止している(金輸出禁止ともいう)。欧米諸国が金本位制を停止している状況下で、日本だけ円と金貨を交換できる金本位制を続けていると、円を金貨に交換する人が続出して日本から正貨が流出してしまうことになるからね。

他にも、第一次世界大戦は史上初の総力戦と呼ばれるものであった。今までの戦争というものは軍人が戦闘するもので国民はそれを国内で応援しているだけだったけど、第一次世界大戦は長期化したことで若年層や女性も含めた国民を軍需工場などに総動員して必要物資の生産にあたらせる総力戦となった。そこで、日本でも将来的に総力戦が起きた時のことを想定して、原敬内閣の 1918 年には軍需工業動員法という戦時には軍需生産増強のために国民を軍需工場などに動員することを可能にする法律が制定されている(1937 年に日中戦争が勃発すると軍需工業動員法が適用され、1938 年に国家総動員法が制定されたことによって廃止される)。

[B] 大戦景気(重化学工業)

世界的な船舶不足により発達したのが海運業や造船業だ。特に欧米市場・中国市場への輸出が伸びたことで、外国航路が拡大した海運業は飛躍的に発展し、イギリス・アメリカに次ぐ世界第 3 位の海運国にまで成長している。その結果、一挙に金持ちになった船成金と呼ばれる者が誕生し、右の風刺画は料亭から帰る時に履物を履こうとしたところ足元が暗くてよく見えなかったため、取り出した百円札(現在価値に換算すると 20 万円程)に火をつけて足元を照らしたという実際にあった話。



[船成金の風刺画]

特に有名な船成金が内田信也で、第一次世界大戦が勃発すると三井物産の社員を退職して内田汽船を創業して汽船 1 隻をチャーターして、大戦景気終了時には 18 隻の船を所有していたがそれを全部売り払い、のちに衆議院議員・鉄道大臣・農林大臣なども務めている(内田汽船を創業した内田信也・山下汽船を創業した山下亀三郎・勝田汽船を創業した勝田銀次郎は三大船成金と称されている)。なお、また、日露戦争後に世界的水準に達していた造船業では、三菱長崎造船所などの造船技術が世界最高水準に達している。

世界的な船舶不足により活況化した海運業・造船業と同じように、世界的な鉄鋼不足と軍需拡大により活況化したのが鉄鋼業だ(鉄鋼業で財を成した成金は鉄成金と呼ばれた)。1917年には官営の八幡製鉄所で設備の拡張が行われているし(八幡製鉄所では第一期拡張計画(1906～1910)・第二期拡張計画(1911～1916)が行われており、第一次世界大戦による鉄鋼需要の拡大に伴い第三期拡張計画(1917～1927)が行われている)、1918年には南満洲鉄道株式会社が二十一カ条の要求で得た鉱山採掘権を契機に鞍山製鉄所という製鉄所を満洲に設立している。

ここまでが輸出が拡大した産業であるのに対して、第一次世界大戦で交戦国となったドイツからの輸入が途絶したため、染料・薬品・肥料の国内生産が成長して勃興したのが化学工業だ。なお、大正文化で学習する内容だけど、この過程で物理・化学の両分野発展のための研究機関として1917年に設立されたのが大河内正敏を初代所長とした理化学研究所(通称理研)だ(この理化学研究所を中心として昭和時代には新興財閥として大河内正敏を中心とした理研コンツェルンが形成されることになる。また、戦後には財閥解体により11社に解体されたが、1949年にはわかめスープなどで有名な理研ビタミン株式会社、1958年には小保方晴子氏が所属していたことで有名な理化学研究所が特殊法人として新たに発足している)。

このように造船業・鉄鋼業・化学工業の工場がフル稼働する中で、その工場に動力を供給する工業エネルギーも電力化されていき、明治時代の産業革命期において中心だった蒸気力から水力発電を中心とした電力に代わっていくんだ。その電力を供給したのが1914年に完成した猪苗代水力発電所で、1915年に福島県猪苗代湖～東京田端変電所までの225kmの送電に成功して1917年には電動機が蒸気機関を上回っている。また、これも大正文化で学習する内容だけど、この電力の普及によって大正時代になると一般家庭でも電灯が普及し、農村部への普及も進んでいくことになるんだ。現在の東京では蛍光灯やLEDが一般的になっているんだけど、千葉県民・埼玉県民などは今でも電灯を使っているだろうからお馴染みだよ(笑)。



〔猪苗代第一発電所〕

〔C〕 大戦景気(軽工業)

ここまでは重化学工業に関するお話で、ここからは軽工業の話に移っていこう。まずは、幕末の開港後の貿易から輸出品の品目第1位であり、1909年には清国を抜いて輸出量世界一位となっていた生糸を生産する製糸業。こちらは相変わらず絶好調で、明治時代と同じくアメリカ向けの輸出が急増してボロ儲け(アメリカでは第一次世界大戦を経て女性の社会進出が進み、服装が活発的になったことで短いスカートが広まり、生糸を原料にしたストッキングが重宝された)。

それから、明治中期に輸入産業から輸出産業へ転換して輸出品目の第2位に躍り出た綿糸を生産する綿紡績業は、ヨーロッパ諸国が手を引いた中国などのアジア向けの輸出が急増していく(これも基本的に明治時代の頃と同じだね)。さらに、第一次世界大戦後には在華紡と呼ばれる日本資本が中国各地に建設した紡績工場が増加していくんだ(中華に在る紡績工場なので在華紡)。中国に工場を作ってしまうとコストも安く済むしね。

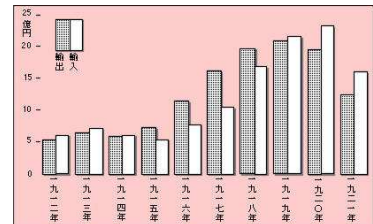
こうして中国の低賃金の労働力を求めて上海・青島・天津に進出していったんだけど、当然その労働条件は日本よりも過酷なものだった。そのため、1925年には上海の在華紡では、中国人労働者が待遇改善を求めて起きたストライキの中で労働者が殺害された。そして、5月30日に上海の労働者・学生がこれに抗議したデモを起こしたんだけど、イギリス人警官が発砲して多数の死傷者が出てしまった(この事件を五・三〇事件という)。この事件を契機に、反イギリスを主とした反帝国主義運動が各地で発展していき、翌年の1926年から蔣介石が率いる中国国民党による北伐が開始されることになるんだ(北伐については昭和時代に授業内で説明する)。

最後は幕末時の開港後の貿易では輸入品目の第2位であったけど、1885年には綿布輸入量<綿布生産量、1909年には綿布輸入量<綿布輸出量へと明治時代後期に輸出産業へと転換した綿織物業。こちらでも生産された綿織物(綿布)の中国などのアジア向けの輸出が急増している。

ただ、綿紡績業では綿花から綿糸を生産するけど、綿糸は所詮糸という半製品なので、その綿糸から綿織物(綿布)を生産する綿織物業の方が利益は大きいよね。それだったら、3大紡績と呼ばれる東洋紡績会社(1914年に大阪紡績会社と三重紡績会社が合併した紡績会社)・大日本紡績会社・鐘淵紡績会社を中心とした紡績会社が綿織物(綿布)工場を兼営して、綿糸から綿織物まで一緒に生産していった方が効率も良い。この紡績会社による綿織物(綿布)工場の兼営により綿織物(綿布)の生産量・輸出量が一挙に増えて、1917年には綿織物(綿布)輸出量が綿糸輸出量を上回っていくんだ。

[D] 大戦景気の影響

右のグラフを見てもらえばわかるように、第一次世界大戦が勃発するまでは1909年を除いてずっと輸入超過だったけど、この大戦景気(1915~1918)によって一転して大幅な輸出超過となり、1914年には約11億円の債務国(他国から借りている金額が他国に貸している金額より多い国)であった日本は、1920年に27億円以上の債権国(他国に貸している金額が他国から借りている金額より多い国)になっている。

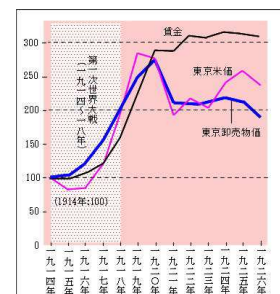


〔第一次世界大戦前後の貿易額〕

特に明治時代は軽工業が中心に発展したけど、大戦景気の頃には重化学工業の生産額が工業生産額の約30%を占めるようになり(ただし、まだ軽工業が中心)、軽工業なども含めた工業生産総額は1919年に1914年の4倍に伸びて、1919年には工業生産額が農業生産額を超えて日本はアジア最大の工業国になっているんだ。こうして1914年には約85万人だった工業労働者数も1919年には約150万人となって、特に男性労働者数は約2倍に増加している。

一方で、農村では米価の高騰や投機で利益をあげた寄生地主が土地を買い集めて、50町歩(60ヘクタール)以上の小作地を所有する大地主が増加するなど、寄生地主制は1923年頃には頂点に達したものの、その後は1922年に結成された日本農民組合を中心に小作料の減免などを求めた小作争議が増加することになり寄生地主制は後退していく(詳しくは授業解説[大正デモクラシー]を参照)。それに対して農業の発展は停滞したままで、小作農は高率の小作料などで苦しい生活を強いられ、寄生地主制の下で停滞する農村から農家の二男・三男などが都市へ流入し、第一次産業の人口が減少して、第二次・第三次産業の人口が増加することになる。そして、特に重化学工業の発達を背景に都市の男性の工業労働者が増加して、東京・大阪などの大都市の人口も増加することになるんだ。

「じゃあ、大戦景気なら給料も上がって庶民もウハウハだったんだね!」と思っている人は甘い。資本家は潤って成金が生まれ、確かに労働者の賃金も上昇していったんだけど、都市の人口増加もあって物価はそれ以上に上昇したため、実質賃金は低下してしまっている(右のグラフを見てもわかるように、1915年~1919年頃までは賃金よりも物価の方が上昇しているよね)。そのため、多くの都市労働者の生活は圧迫されることになり、米騒動(1918)が起きる前から既に物価の騰貴が進んでいたわけだ。つまり、1918年に米騒動が起きたのは、シベリア出兵に伴う米商人の買い占め・売り惜しみによる米価急騰だけでなく、それ以前からの大戦景気によるインフレ(物価高騰)も背景にあったわけだ。



〔大戦前後の物価指数〕

でも、**1918年**に第一次世界大戦が終了すると軍需品などの注文はなくなり、急速な復興を遂げたヨーロッパ諸国が生産力を回復していく（アメリカは第一次世界大戦中に連合国に物資・借款を提供していたため、戦後は債権国として世界経済の中心となってアメリカは空前の好景気を迎える）。さらに、大戦中にアジア市場から後退していたヨーロッパ諸国が中国市場にも復帰してくる。そのため、輸出競争力が激化して輸入超過となった日本は過剰生産の状況となり、株式市場の大暴落をきっかけに**1920年**には戦後恐慌と呼ばれる不景気に陥ってしまうんだ。

なお、大戦景気を背景に積極財政を進めていた原敬内閣は戦後恐慌により行き詰まってしまい、汚職事件など政治腐敗に対する批判が高まる中で、**1921年**に原敬首相が東京駅で中岡良一によって刺殺されてしまうことになる（原敬暗殺事件）。なお、写真は東京駅の丸の内南口にある原敬殺害現場の目印なので、東京駅に行く機会があったら探してみるといいかもね。



〔原敬暗殺現場目印〕

<テキスト書込箇所(P72 下部)>

1914年 第一次世界大戦勃発（→欧州への軍需品・米国への生糸・アジアへの綿織物輸出が増加）……→**1917年** 金本位制停止（寺内正毅内閣）
→大戦景気（1915～1918）→軍需工業動員法（1918）で国民を軍需工場に総動員 世界大戦で各国が金本位制を停止したため

重 化 学 工 業	①海運業（世界的な船舶不足のため活況） 世界第3位の海運国 →船成金（海運業により急に富を蓄えた者）の誕生 ex. 内田汽船（内田信也）・山下汽船（山下亀三郎）	軽 工 業	①製糸業（生糸の輸出急増→アメリカ向け） ②綿紡績業（綿糸の輸出急増→中国などのアジア向け） →在華紡（中国各地につくられた日本の紡績工場） ex. 五・三〇事件(1925) 上海の在華紡で起きたストが契機
	②造船業（世界的な船舶不足のため活況） 三菱長崎造船所（造船技術が世界最高水準に達する） ③鉄鋼業（世界的な鉄鋼不足と軍需拡大により活況） 八幡製鉄所の拡張（1917） 鞍山製鉄所（1918）（南満州鉄道株式会社が満州に設立） ④化学工業（ドイツからの輸入途絶のため勃興）ex. 理化学研究所 染料・薬品・肥料の国内生産成長（大河内正敏） ⑤工業原動力→蒸気力<電力（水力発電中心） 猪苗代水力発電所（1915）（福島〜東京の送電に成功） →大正時代には一般家庭でも電灯が普及		③綿織物業（綿織物（綿布）の輸出急増→中国などのアジア向け） →綿糸輸出量<綿織物（綿布）輸出量（1917）
			金借りてる国 金貸してる国 ①輸出超過（債務国（11億円）→債権国（27億円）へ） ②工業の発展（重化学工業が工業生産額の30%を占める） ↓ →工業生産額>農業生産額（1919） ③工業労働者数が約2倍に増加（約150万人） 寄生地主制の下で停滞する農村から農民が都市へ流入 →都市の（男子）工業労働者数が増加（都市の人口が増加）

1918年 第一次世界大戦終了（→欧州諸国の生産力回復と中国市場復帰）
→戦後恐慌（1920）（株式市場の大暴落を契機に起きた恐慌）